

## 2 悩み

久しぶりに新卒で入ってきた先生が、突然、学校に来なくなってしまうしました。どうやって声をかけたらいいでしょうか？

お互い様の精神で、まずは気軽に電話を！

中堅の先生たちから、「最近の若い先生は頼ってくれない。甘えるのが下手」とこぼされることが多いですね。カウンセリングの用語で、「被援助指向性」というのですが、これが低い。「助けてあげたくても、助けてくれと言われてないと支援ができない」ものです。悩み相談でも、まずは相談窓口に来てもらわないことには、相談に乗ってあげることができませんね。

ところが、若手の先生は、悩みを自分から相談することがとても苦手なんです。それは、自分に自信がないから。さらに弱みを見せるような相談はなかなかしづらうかのような恐怖があるんです。ですから、このケースの場合など、こちらから気軽に声をかけてあげてほしいと思います。「どうしているの？ちょっと気になったか



ら〜」という軽い感じで、電話でもしてあげてください。

一方、若い先生には、先輩の先生たちをどんどん頼りましょう！と伝えたいですね。

そもそも教師という人種は、人のお世話をしたくてたまらない。特に、新卒の先生は、自分の生徒と同じ。面倒見たくて仕方ないのです(笑)。相談されずに寂しい思いをしている先生がたくさんいるということに、気づいてください。

教師こそ、助け合いの精神が大事。お互い様、もたれあいの精神こそが、教員生活を長続きさせる最大のポイントです。

もとみ・よしひこ ● 明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。1963年福岡県生まれ。筑波大学人間学類・同大学院博士課程修了。千葉大学教育学部助教授を経て現職。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワークを支援する「教師を支える会」代表。時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー。「偶然をチャンスに変える生き方 最新キャリア心理学に学ぶ」「7つの力」を育てるキャリア教育」など著書多数。